



総研大ニューズレター

第118号 2018.6発行

目次

【今月のトピックス】

| | |
|--|---------------|
| 入学式/フレッシュマンコース | 広報社会連携係 |
| 湘南国際村フェスティバル2018 「日本人の異界観を探るー異界訪問絵巻を手がかりにー」 | 広報社会連携係 |
| 生命共生体進化学専攻講演会・説明会の開催 | 先導研事務係 |
| 遺伝研一般公開を開催 | 国立遺伝学研究所広報チーム |
| 大学院一日体験会を開催 | 国立遺伝学研究所広報チーム |
| 文化科学研究科がハワイ大学マノア校と学術交流協定を締結 | 日本文学研究専攻 |

【受賞情報/プレスリリース/メディア出演情報】

受賞6件/プレスリリース2件/メディア出演5件

【イベント情報】

総研大 各専攻イベント情報

【今月のトピックス】

● 入学式/フレッシュマンコース

2018年4月10日(火)、葉山キャンパス講義室にて、平成30年度春季入学式が挙行政され、76名(地域文化学専攻6名、比較文化学専攻1名、国際日本研究専攻4名、日本歴史研究専攻2名、構造分子科学専攻10名、機能分子科学専攻4名、天文科学専攻1名、核融合科学専攻1名、宇宙科学専攻2名、加速器科学専攻1名、物質構造科学専攻3名、素粒子原子核専攻5名、統計科学専攻5名、極域科学専攻2名、情報学専攻14名、遺伝学専攻2名、基礎生物学専攻5名、生理科学専攻5名、生命共生体進化学専攻3名)の新入生をむかえました。学長式辞は本学ウェブページにてご覧ください。

◆平成30年度春季入学式 学長式辞

<https://www.soken.ac.jp/news/43650/>

入学式に引き続き、葉山キャンパス 福利厚生室にて、フレッシュマンコースが行われま



式辞を述べる長谷川学長



フレッシュマンコースの様子



した。フレッシュマンコースには60名の新生・在生が参加し、3泊4日の合宿で、研究者を目指すすべての人が身につけるべき技術・考えるべき問題を学ぶとともに、総研大ならではの知的広がりに触れる中で、異なる分野の人とのつながりを築く機会となりました。



葉山キャンパス園庭での集合写真
(フレッシュマンコース参加者、葉山キャンパス教員)

【広報社会連携係】

● 湘南国際村フェスティバル2018

地域交流イベント「湘南国際村フェスティバル2018」において、5月3日(木・祝)に葉山キャンパスで下記の講演会を開催しました。

今年度は、国際日本文化研究センター所長 小松和彦先生を講師にお招きし、「日本人の異界観を探る—異界訪問絵巻を手がかりに—」と題して、「日本版ファンタジーの起源ともいえる中世の異界訪問譚を描いた絵巻を手がかりに、日本人の異界の特徴や絵画表現」などについてご講演いただきました。当日は、約100名の参加者があり、参加者からは「過去の日本人の考えた異界を知ることができ、興味深かった。異界についての共通点が特に面白かった。四季についての考え方(四方四季の庭)についての考えが興味深い。」「資料映像が多く、地藏堂縁起など珍しい話も紹介があり、おもしろい話だった」「四方四季という空間、とても面白かった。時間の捉え方、不思議な気分になった。」といった声が寄せられました。【広報社会連携係】



小松先生の講演の様子

湘南国際村フェスティバル2018
講演会

日本人の異界観を探る —異界訪問絵巻を手がかりに—

2018年5月3日(木祝)
要予約 申込み不要 入場無料
講師 小松和彦
| 時間 | 14:30-16:00
| 会場 | 総合研究大学院大学 2階講義室
| 講師 | 小松和彦
国際日本文化研究センター 所長 総合研究大学院大学 教授

講義内容 (要予約) 異界訪問譚は、中世の異界訪問譚を描いた絵巻を手がかりに、日本人の異界の特徴や絵画表現についてご講演いただきます。当日は、約100名の参加者があり、参加者からは「過去の日本人の考えた異界を知ることができ、興味深かった。異界についての共通点が特に面白かった。四季についての考え方(四方四季の庭)についての考えが興味深い。」「資料映像が多く、地藏堂縁起など珍しい話も紹介があり、おもしろい話だった」「四方四季という空間、とても面白かった。時間の捉え方、不思議な気分になった。」といった声が寄せられました。

総合研究大学院大学
〒252-0293 神奈川県三浦郡葉山町(葉山キャンパス)
TEL: 0427-852001 FAX: 0427-852002 E-mail: info@riic.sokan.ac.jp

● 生命共生体進化学専攻講演会・説明会の開催

生命共生体進化学専攻は、5月19日(土)に秋葉原UDXカンファレンスにおいて専攻説明会・講演会を行いました。本専攻では毎年2回の説明会を開催しており、今年度初回となる今回は、合計5名の参加がありました。

前半の講演会では、本専攻における研究の中から最前線のテーマ「Polarization vision: Invertebrates' hidden visual world (偏光視: 虫たちが見る秘密の世界)」、「五感の遺伝子の進化」、「放射能市民測定所のある風景——市民科学から科学と社会を考える」の3つの講演(後述)が行われました。講演のうち1つは英語で行われたのですが、皆、身をのり出して最後まで真剣に耳を傾けていました。

また、後半の専攻説明会では、本専攻の特徴とカリキュラムの解説に引き続き、専攻の各分野の教員から研究室の研究内容について紹介がありました。ポスター発表では、参加者から、研究内容に関する議論のみならず、大学院に入学した際のテーマの選び方、興味をもつテーマの実現性、大学院での生活、博士取得後の就職状況、研究指導体制、カリキュラムと学生支援体制など、多岐にわたる質問があり、教員との活発な意見交換が行われました。「お話を伺いたい先生とじっくりお話しすることができて、とても有意義な時間を過ごすことができました。」「入試について自分で調べても分からなかったので、説明会で聞くことができてよかったです。」という声も聞かれました。

この説明会が、本専攻のことを知る一歩となり、オープンキャンパス、体験入学への参加に結びつき、さらには具体的な意思を持った進学希望者が増えることを願っています。

【プログラム概要】

第1部 13:00-15:00

講演「生命共生体進化学専攻における研究の最前線」

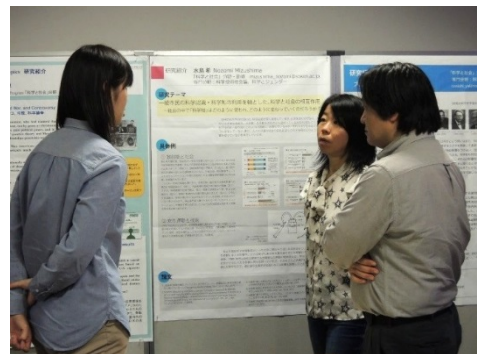
① 「Polarization vision: Invertebrates' hidden visual world

偏光視: 虫たちが見る秘密の世界」 助教 Stewart Finlay

Polarization is a property of light that we humans cannot see, but many invertebrates can. This ability allows them to detect specific cues in the environment, including reflections from water surfaces, markings on conspecifics, and a sunlight pattern in the sky that provides a directional reference for navigation. In my talk, I suggest that polarization vision may also serve as a more general-purpose mechanism for contrast enhancement, analogous to the role that colour vision serves in humans. To illustrate this point, I introduce work done on *Papilio* butterflies by me and my colleagues in the Arikawa lab, looking at how polarization influences foraging, oviposition, and motion detection behaviour. It appears that *Papilio* perceive polarization differently between these contexts, suggesting that we should view vision not as a



Finlay 助教の講演に真剣に
耳を傾ける参加者



参加者の質問に熱心に回答する
伊藤准教授と水島助教

single unified sense, but rather several parallel subsystems that process light information differently for different ecological purposes.

② 「五感の遺伝子の進化」 教授 颯田 葉子

視覚、嗅覚、聴覚、味覚、触覚の感覚について、特に、視覚、嗅覚、味覚の感覚受容体の遺伝子の進化について、様々な生物のゲノムのデータから明らかになったことを紹介しました。これらの感覚受容体遺伝子は、生物が外界からの情報を取り込むために重要であるが、各生物が、感覚受容体遺伝子群について、どのようなレパートリーを持っているかは、遺伝子重複とその後の変異によって、遺伝子が機能を失うことや、新たな機能を獲得することで調節されています。また、感覚受容体遺伝子の機能はその生物が生息する環境、その生物の食性と関連していることを示しました。

③ 「放射能市民測定所のある風景 ——市民科学から科学と社会を考える」 助教 水島 希

2000年代半ば以降、一般市民が参加する大型科学プロジェクトが世界的に流行しています。この科学者主導型「市民科学」の華々しい学術的成果の陰で、市民が主導する「市民科学」はそれほど注目を浴びていませんが、環境汚染や健康被害などの領域では、かなり以前から調査活動が行われています。市民放射能測定もその1つ。この講演では、福島原発事故後に日本全域に広がった市民による測定活動のうち、特に関東地域を中心に、行政や専門家が「不必要」として行わなかった測定を市民はなぜ行ったのか、また、どのように科学的な「正しさ」を追求したかを紹介し、社会の中での「科学」の在り方を考察しました。

第2部

15:10-16:00 専攻説明会（専攻概要／カリキュラム・入試説明会／研究室紹介）

16:00-17:00 ポスター説明／個別相談

【先導研事務係】

● 遺伝研一般公開を開催

4月7日（土）、今年は例年より桜の開花が早く、ソメイヨシノが散り始めてしまったことにより、世間一般の方の桜への期待度が低く、前日は風雨が強かったためご来場いただけるか心配した一般公開でしたが、当日は話題の八重桜・菊桜もちょうど花咲かせ、2,800名のご来場者の方達に喜んでいただく事ができました。



国立遺伝学研究所の桜

遺伝学研究所の研究の成果を見て、感じていただく、ポスター展示・体験イベントでは、年齢問わず熱心に顕微鏡をのぞき込む姿がありました。その中でも未来ある若者の向学心はとて素晴らしく、小さな手で一生懸命取り組んでくれました。そして、今回、一般公開初の試みとして、地元ラジオ局「ボイス・キュー」による公開生放送・収録をおこないました。普段お伝えすることができない、遺伝研の『研究の声』をご来場いただけなかった方たちにも届けることができたのではないかと思います。【国立遺伝学研究所 広報チーム】



地元ラジオ局「ボイス・キュー」による公開生放送・収録

● 大学院一日体験会を開催

5月26日(土)に遺伝学専攻では国立遺伝学研究所で大学院一日体験会を開催しました。

大学院一日体験会に参加するため、全国各所から32名の参加者が静岡県三島市にある遺伝研に集いました。まずはゲストハウスにて桂専攻長の挨拶です。大学院生活に関することや、研究の喜びなどについてお話がありました。専攻

長の挨拶の後は講堂に移動し、ポスターによる研究室紹介が始まりました。遺伝研では多彩な研究室が多岐にわたる研究テーマについて、モデル生物やデータベースを用いた様々な研究をおこなっているため、ポスターも多彩です。参加者は各研究室のポスターを囲んで熱心に研究者の話を聞いていました。各研究室の研究を概観したのちには、研究室を訪問して、実際の研究環境を見学し、研究者と直接話す機会がありました。遺伝研の優れた研究環境、研究者の熱意を感じ取ってもらえたことと思います。最後に遺伝学専攻の大学院生との懇談会がありました。大学院生を囲んで、大学院生活、三島での暮らしなどさまざまなことについて話が弾んでいました。参加者の皆様には遺伝学専攻の充実した教育環境を実感してもらえたことと思います。

【国立遺伝学研究所 広報チーム】

● 文化科学研究科がハワイ大学マノア校と学術交流協定を締結

2月28日(水)に、ハワイ大学マノア校において、文化科学研究科とハワイ大学マノア校との間の学術交流協定締結の調印式が開催されました。

この学術交流協定は、日本文学研究専攻の基盤機関である国文学研究資料館が従来から行ってきたホノルル美術館所蔵日本古典籍の書誌的調査の実績を踏まえ、総研大の国際連携事業経費の助成を受けて開催した「日本古典籍セミナー2017ホノルル」(会場:ホノルル美術館)が大好評だったことから、さらなる交流拡大へ向けて、文化科学研究科として初めて、海外の大学と締結されることとなったものです。

翌3月1日には昨年度に引き続き2回目の開催となる「日本古典籍セミナー2018ホノルル」を開催し、ホノルル美術館所蔵の日本古典籍資料の貴重



ハワイ大学マノワ校で行われた協定締結式の様子

さや意義、さらには日本文学の魅力をハワイ大学の大学院生をはじめとする参加者にアピールすることができました。

ハワイ大学側からは、日本文学分野以外にも総研大と積極的な交流を図りたいとの意見交換がされ、協定締結に伴い、より一層交流が活発化することについて大きな期待が寄せられています。【国文学研究資料館 日本文学研究専攻】

受賞・プレスリリース・ メディア出演

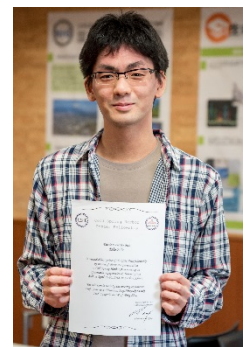
受賞情報

○Cold Spring Harbor Asia Conference 2018 “1st prize of the CSH Asia fellowship” を受賞

【受賞者】 遺伝学専攻・学生・齋藤 絡

【受賞のコメント】『研究室のサポートや遺伝研での講義(科学英語演習など)のおかげで受賞できました。今回、トランスポゾンによる抗抑制作用の進化について報告しましたが、今後はその進化を駆動するシステム・メカニズムについて迫っていこうと思っています。』

【関連 URL】 https://www.nig.ac.jp/nig/ja/2018/04/information_ja/20180426.html



○Marine Ecosystem Assessment of the Southern Ocean, MEASO2018 「Student Poster Award」 を受賞

【受賞者】 極域科学専攻・学生・影沢歩友子

【概要】平成30年4月9日～13日にオーストラリア・ホバートで開催された Marine Ecosystem Assessment of the Southern Ocean, MEASO2018 において、影沢歩友子氏が、「Student Poster Award」を受賞しました。

【関連 URL】 <http://www.measo2018.aq/>

○『2017年 美連協奨励賞（美術館表彰）』を受賞

【受賞者】 地域文化学専攻・准教授・齋藤玲子

【概要】開館40周年記念企画展 アイヌ工芸品展「現れよ。森羅の生命― 木彫家 藤戸竹喜の世界」について、美連協奨励賞（美術館表彰）を受賞しました。

【関連 URL】 <https://event.yomiuri.co.jp/jaam/list2017.cfm>

○『第7回自然科学研究機構若手科学者賞』を受賞

【受賞者】 核融合科学専攻・助教・仲田資季

【受賞のコメント】『この度は身に余る賞を頂き、大変光栄です。これからも核融合プラズマの乱流現象における未解明問題への挑戦を通して、研究・教育を発展させていきたいと思っています。』

【関連 URL】 http://www.nins.jp/public_information/07risingsun.php



○平成 30 年度 科学技術分野の文部科学大臣表彰

本学教員が、科学技術分野で顕著な功績があったとして、科学技術分野の文部科学大臣表彰を受賞しましたのでお知らせします。

| 部門 | 氏名 | 所属・役職 | | 業績名 |
|----|-------|--|-----------------|------------------------------|
| 研究 | 大森 賢治 | 自然科学研究機構 分子科学研究所 教授・研究主幹 | 機能分子科学 専攻 教授 | アト秒精度の極限コヒーレント制御の開発と応用に関する研究 |
| 理解 | 宮岡 宏 | 情報・システム研究 機構国立極地研究 所 教授 | 極域科学専攻 教授 | オーロラシアターを活用した地球惑星科学の理解増進 |
| 若手 | 石川 遼子 | 自然科学研究機構 国立天文台 SOLAR-C準備室 助教 | 天文科学専攻 助教 | 飛翔体観測装置を駆使した太陽磁場に関する観測的研究 |
| 若手 | 須田 理行 | 自然科学研究機構 分子科学研究所 協奏分子システム 研究センター 助教 | 構造分子科学 専攻 助教 | 界面双極子制御に基づく分子デバイス開発に関する研究 |
| 若手 | 秦 和弘 | 自然科学研究機構 国立天文台水沢 VLBI観測所 助教 | 天文科学専攻 助教 | 高解像度電波観測による巨大プロトクホールジェットの研究 |
| 若手 | 村山 泰斗 | 情報・システム研究 機構国立遺伝学研 究所新分野創造セ ンター 准教授 | 遺伝学専攻 准教授 | コヒーシ複合体による姉妹染色体接着形成の分子機構の研究 |

【詳細 URL】 <https://www.soken.ac.jp/news/n03/43794/>

○第 5 回 Diels-Planck-Lecture award を受賞

【受賞者】 分子科学研究所長・機能分子科学専攻長・川合真紀

【概要】 ナノおよび表面科学分野における傑出した科学者および著名な指導者に対して、ドイツのキール大学より年 1 回授与されます。この講演はキール大学ナノサイエンスの創設者であり、ノーベル賞受賞者のマックス・プランクおよびオットー・ディールスを記念したものです。

【関連 URL】 https://www.ims.ac.jp/news/2018/05/10_3976.html

プレスリリース情報

○動物はどうやって危険を察知することができるようになるのか？ (2018.04.25)

【プレスリリース概要】

恐怖を感じるような危険な出来事をその予兆（刺激）と関連付けること（恐怖条件付け学習）は、動物が危険を回避し、生存するためにとても大事なことです。哺乳動物では、脳の構造のひとつである扁桃体がこの学習に重要な役割を果たしています。けれども、より原始的な魚類の脳で恐怖条件付け学習に重要な神経回路はわかっていませんでした。

総合研究大学院大学院生（当時）の Pradeep Lal 博士と情報・システム研究機構 国立遺伝学研究所 川上浩一教授らの研究グループは、モデル生物のゼブラフィッシュにおいて特定の脳神経細胞を可視化したり、操作したりする技術の開発に成功してきました。今回、これらの技術を駆使して、終脳の

Dm とよばれる領域の特定の神経細胞が恐怖条件付け学習に重要であることを突き止めました。すなわち、この神経細胞が哺乳動物の扁桃体と同じ役割を果たしているのです。

本成果は、恐怖条件付け学習に必須な脳神経回路の構造や進化を明らかにしていく手掛かりになります。また恐怖や不安が関わる疾病や PTSD などの原因解明や治療の基盤になることが期待されます。

【詳細 URL】 <https://www.soken.ac.jp/news/43724/>

○太陽の自転周期が雷の発生に影響している～江戸時代の日記の分析で判明～（2018.04.27）

【プレスリリース概要】

武蔵野美術大学の宮原ひろ子准教授、国立極地研究所・総合研究大学院大学の片岡龍峰准教授、国文学研究資料館の岩橋清美特任准教授らの研究グループは、江戸時代の古典籍に含まれる日々の天気の詳細な記録などから、太陽の 27 日の自転周期が過去 300 年にわたって日本での雷の発生に影響を及ぼしてきたことを明らかにしました。

太陽活動と気候変動に相関が見られることはすでに知られていますが、そのメカニズムはまだ分かっておらず、加えて、気象の時間スケールでも太陽活動が影響するのかどうかについては議論が続いています。

研究グループは、江戸時代の古典籍を用いて、17 世紀後半以降の約 200 年分の弘前、八王子、江戸における雷の発生日を調べました。その結果、太陽活動が活発化するほど、日本の夏の雷の発生に 27 日周期が強く現れることを発見しました。これは、太陽の自転が気象のスケールでも重要な影響を与えていることを示唆するものです。

太陽活動が活発化すると、太陽表面に黒点や白斑が現れ、また太陽フレアも起こりやすくなります。太陽の自転の影響で地球に降り注ぐ光の量が周期的に変化することや、太陽フレアの発生により地球に降り注ぐ宇宙線の量が 27 日周期で変動することが、雷の発生に影響している可能性があります。今後、太陽活動が雷の発生に影響するメカニズムを解明することにより、気候予測の精度向上や、長期的な気象予測への手がかりになることが期待されます。

本研究は、欧州地球物理学会の発行する学術誌「Annales Geophysicae」にオンライン掲載されました。

【詳細 URL】 <https://www.soken.ac.jp/news/43871/>

メディア等出演情報

○NHK スペシャル 人類誕生

【出演】 学長・長谷川真理子

【概要】『NHK スペシャル 人類誕生 なぜ 700 万年間の人に人へ進化できたのか？第二集「そしてヒトが生き残った」』に出演しました。長谷川学長は、ゲスト専門家として、スタジオにてネアンデルタール人とホモサピエンスの違いの説明など、人類学者としての知見を活かして紹介しました。

【日時】 2018 年 5 月 13 日(日)

○NHK E テレ「日曜美術館」

【出演】 地域文化学専攻・教授・野林厚志

【概要】野林厚志教授が出演し、開館 40 周年記念特別展「太陽の塔からみんぱくへー70 年万博収集資料」の展示を紹介しました。

【日時】 2018 年 3 月 25 日(日)

【URL】 <http://www4.nhk.or.jp/nichibi/x/2018-03-25/31/13072/1902755/>

○読売新聞朝刊「触って嗅いで「お花愛」いかが」

【掲載】 比較文化学専攻・准教授・広瀬浩二郎

【概要】 広瀬浩二郎准教授へのお花見に関するインタビュー記事が掲載されました。

【日時】 2018 年 4 月 1 日(日)

【URL】 <http://www.yomiuri.co.jp/osaka/feature/CO004339/20180403-OYTAT50000.html>

○美術手帳 2018 年 6 月号 特集「アートと人類学」

【掲載】 地域文化学専攻・准教授・川瀬慈

【概要】 映像人類学について、川瀬慈准教授のインタビューが掲載されました。

【日時】 2018 年 5 月 7 日(月)発売

【URL】 <http://www.bijutsu.press/books/2018/04/bt-1806.html>

○文藝春秋 6 月号「みんぱく 40 年の宝物」

【掲載】 比較文化学専攻・教授・吉田憲司ら

【概要】 グラビアのみんぱく特集にて、吉田憲司教授、池谷和信教授、野林厚志教授、山中由里子准教授、川瀬慈准教授、吉岡乾助教のインタビューが掲載されました。

【日時】 2018 年 5 月 10 日(水)発売

【URL】 <http://bunshun.jp/articles/-/7210>

イベント情報

| 日程 | 時間 | イベント名称 | 参考 URL | 実施専攻・ 基盤機関 |
|-------------|-------------|-----------------------------------|---|---------------------------------|
| 6/8 | 13:45-19:45 | 生命共生体進化学専攻オープンキャンパス | https://www.soken.ac.jp/event/20180608/op1/ | 生命共生体進化学専攻 |
| 6/9 | 15:30-17:00 | 日本歴史研究専攻 大学院説明会(第 1 回) | https://www.soken.ac.jp/event/rekihaku20180609/ | 日本歴史研究専攻 |
| 6/9 | 13:00-16:30 | 高エネルギー加速器科学研究科 大学院説明会 | http://kek.soken.ac.jp/sokendai/admission/setsumeikai/ | 加速器科学専攻 物質構造科学専攻 素粒子原子核専攻 |
| 6/15 -16 | | 構造・機能分子科学専攻 大学院説明会・オープンキャンパス 2018 | https://www.ims.ac.jp/education/openampus2018.html | 構造・機能分子科学専攻 |
| 6/15 | 10:30-17:00 | 統計科学専攻 学生研究発表会 (ポスター発表) | http://www.ism.ac.jp/openhouse/2018/index.html | 統計科学専攻 |
| 6/15 | 15:40-18:30 | 統計科学専攻 大学院説明会 | http://www.ism.ac.jp/senkou/setsumeikai.html | 統計科学専攻 |
| 6/23 | 16:00-18:00 | 情報学専攻 大学院説明会・個別相談会 | https://www.nii.ac.jp/graduate/entrance/guidance/ | 情報学専攻 |

| | | | | |
|-------------|-------------|-----------------------------|---|---------------------------------|
| 7/3 | 10:00-17:30 | 高エネルギー加速器科学研究科 オープンキャンパス | http://kek.soken.ac.jp/sokendai/admission/setsumeikai/ | 加速器科学専攻 物質構造科学専攻 素粒子原子核専攻 |
| 7/31 | 14:00-16:00 | 中高生のための科学セミナー | https://soken.ac.jp/event/20180731 | 葉山キャンパス |
| 8/20 -24 | | 平成 30 年度 夏の体験入学 | http://soken.nifs.ac.jp/open/open2018/ | 核融合科学専攻 |

※原則として、総研大専攻としての行事のみを掲載します。

【お知らせ】

○平成 30 年度の総研大ニューズレターについて

2018 年度は 4 月・6 月・9 月・11 月・2 月の年 5 回発行（予定）です。

○総研大ホームページにて各種情報発信中です。

『総研大ピープル』 <https://www.soken.ac.jp/outline/people/>

『卒業生の就職先・受験生へのメッセージページ』

https://www.soken.ac.jp/admission/student_activity/activity/

『総研大公式 Facebook ページ』 <https://www.facebook.com/SOKENDAI/>



| 総研大公式 Facebook フォロワー数カウンター | 2018 年 1 月末 | 2 月末 | 3 月末 | 4 月末 | 5 月末 |
|-------------------------------|-----------------|-----------------|------------------|------------------|------------------|
| | 86 人 (+16 人) | 97 人 (+11 人) | 116 人 (+19 人) | 152 人 (+36 人) | 167 人 (+15 人) |

・いよいよフォロワー数 160 人突破しました！200 人も目の前です。

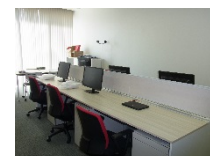
・「#SOKENDAI」で総研大情報発信にご協力ください。



編集後記

総研大東京ブランチャ（STB）が東京田町の東京工業大学 CIC に設置され

てから 2 ヶ月が経ちました。モダンなオフィス、大都会です（右図）。（広報社会連携係 SS）



広報社会連携係では、メディアを通じて総研大の研究成果を広く社会に発信しています。特に、総研大在学生在が筆頭著者として研究論文を出版する際、プレスリリースを行う場合は、総研大と所属専攻（基盤機関）との共同プレスリリースを行っておりますので、是非総研大広報社会連携係までご連絡ください。

各専攻の学生・担当教員の「メディア出演」、「受賞・表彰」および「地域社会と連携・密着したアウトリーチ活動等の社会連携・貢献活動」についてニューズレター、ウェブ掲載等により発信しておりますので、各種情報を是非お寄せください。

研究論文を投稿する場合や、メディア等に出演される場合は、「総合研究大学院大学」と表記いただきますよう、総研大の知名度向上にご協力をお願いいたします。

発行 2018 年 6 月
編集



国立大学法人

総合研究大学院大学

SOKENDAI (THE GRADUATE UNIVERSITY FOR ADVANCED STUDIES)

神奈川県三浦郡葉山町(湘南国際村)

TEL 046-858-1590 / FAX 046-858-1648

Email kouhou1(at)ml.soken.ac.jp

※(at)は@に変換してください。

©2018SOKENDAI